



17 パートナーシップで目標を達成しよう



目標 17 パートナーシップで目標を達成しよう

持続可能な開発のための実施手段を強化し、グローバルなパートナーシップを活性化すること

SDGsの17の目標は幅広い分野にわたっており、地球規模の課題を解決し、持続可能な社会をつくるためには、国・企業・地域レベルで協力し合い行動することが重要です。私たち1人ひとりがそれぞれの役割を果たすとともに、連携を深めて取り組む必要があります。



▲地区別計画策定の会議の様子

町の取り組み ◆地区のまちづくり活動の推進

町では、住民の身近な地区におけるまちづくりを進めるため、各地区が総合振興計画地区別計画を策定し、住民と行政が協働でそれぞれの役割を踏まえたまちづくり活動が展開されています。

平成29年度に策定された地区別計画は、地区の状況を把握するまちあるきを行ったり、地区づくり会議で10年間の活動の振り返りや計画の内容検討など、住民の皆さんが主体となって策定されました。

地区の創意工夫により、世代間交流会、環境美化活動、伝統文化の継承、交通安全啓発看板設置、親睦スポーツ大会など、地区別計画の目標達成に向けた活発な地域づくり活動が行われています。町では、地区のまちづくり活動に対して、行政区活動活性化交付金により財政支援を行っています。

桜ヶ丘地区では、「地区づくり委員長を中心に継続して活動に取り組んでいます。地区住民は花壇整備で地区がきれいになって喜んだり、もちつき交流会などの行事を毎年楽しみにされています。」と区長の甲斐貴裕さんは話されています。

これからも氷川町は「安心して暮らすことができ、幸せを実感できる持続可能なまち」を目指し、地域と一体となったまちづくりを進めていきます。



▲もちつき交流会（桜ヶ丘地区）



▲スポーツ交流会（東網道地区）

【連載最終号を迎えて】

昨年6月号から毎月連載し、SDGsの各目標ごとに本町の主な取り組みをお伝えしてきました。

1つ1つの小さな取り組みであっても、それがSDGsの17の目標につながり、地域課題解決への取り組みにつながっていきます。SDGsの17の目標を伴う国連の行動計画は、普遍的であり、先進国、途上国を問わず、すべての国に対して「誰も置き去りにしない」ための行動を求めています。この連載を通してSDGsを身近に感じていただき、私たちにできることを取り組んでいきましょう。

【お問い合わせ先】 企画財政課 企画係 ☎0965-52-5850

最終号



SDGs ~私たちにできること~



SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

連載でSDGs(持続可能な開発目標)についてお伝えしています。今回は、17のゴール(目標)の「11 住み続けられるまちづくりを」「17 パートナーシップで目標を達成しよう」について本町の取り組みを交えながら紹介します。

SDGsは、貧困や不平等・格差、気候変動などの様々な問題を根本的に解決することを目指す、世界共通の17の目標です。

11 住み続けられるまちづくりを



目標 11 住み続けられるまちづくりを

安全・安心で災害に強く、持続可能なまちと快適で暮らしやすい環境を実現すること

現在、世界の人口の半数以上は都市部で暮らしており、2030年にはそれが6割以上になると予測されています。多くの人々が暮らす都市部は地震や台風などの大規模な自然災害が発生すれば、多くの人命が失われるリスクを抱えています。健康で快適に住み続けるために、災害に対して強靱なまちをつくる必要があります。



町の取り組み ◆地域の防災活動の推進

町では、熊本地震の甚大な被害を受け、防災意識が高まっており、地域防災計画に基づく町全体の防災・減災体制の構築や施設設備の充実を図り、災害に強いまちづくりを進めています。

- 町の防災機能の充実を図るため、役場に災害対策室を整備
- 町内4箇所に防災備蓄倉庫を整備し、27,000食分を備蓄
- 防災行政無線をアナログからデジタル方式へ移行

また、町内全地区が地区防災計画を策定し、自主防災組織による防災訓練などの活動が毎年実施されており、訓練を通して自主防災組織の基盤強化や地区の一体的なつながりの構築につなげています。

令和元年度には、町主催による総合防災訓練を実施し、消防団や婦人会、各地区から約400人の参加がありました。訓練では、初期消火訓練、濃煙内体験、AED操作講習、非常食の試食などを行い、防災に対する意識の向上を図りました。

今後も消防団や自主防災組織を核とした地域防災体制の充実と、町全体での取り組みが連携することにより、安全・安心なまちづくりを進めていきます。

町の取り組み ◆防災教育(コミュニティ・スクール)

氷川町コミュニティ・スクールでは、今年度、それぞれの中学校区の拡大学校運営協議会で防災教育に取り組みました。

竜北中学校区では、準備の段階から各地区担当のCS委員と中学生が通学路の危険箇所や防災教室の内容などについて話し合いを進めました。11月14日(土)に各地区から小中学生とCS委員と一緒に登校後、中学生が先生役になり防災の視点から命を守る大切さについて学びました。

氷川中学校区では、11月7日(土)に各地区の公民館などで防災教室を実施しました。この教室には小学生、区長、消防団、CS委員などが参加し、地域の危険箇所を確かめたり過去の災害の話や聞くなど、地域の皆さんと一緒に防災について学びました。

※宮原小学校は、県教育委員会の令和2・3年度防災教育研究推進校に指定され、防災教育に関する様々な取り組みを行っています。



▲防災拠点となる役場災害対策室



▲総合防災訓練の様子



▲地域ぐるみで防災教室を実施